



「テーマは『躍動』です。9月より本格的に準備を行ってきました。楽しい、素晴らしい学習発表会にしましょう」と東 真衣実行委員長のあいさつで開会。西山校長の「やる気と時々不安を乗り越えた充実感」と「豊かな心」へ思いは伝統文化、各教科・学習の発表そして各クラス単位の合唱コンクールに見えたのではないのでしょうか。また、「今年も和の精神を持ち、発表会に向けて全力を注いで準備してきました」の河北麻依生徒会長の言葉を来校されたすべての人が納得では。



こんな絵手紙うれしいでしょうね



三味線の音色を楽しみました

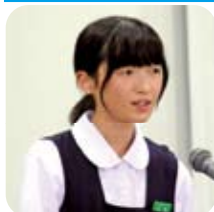


ずっと続けてください

「意見発表」では、音楽に対する思い、故郷(家)に対する思いをみんなに伝え、そして伝わったことでしょう。その思いを紹介します。原稿用紙(400字)6枚を紙面の都合でまとめた部分があります。

## 「もっと心と体で感じて」

富合中学校 2年 白杵 茄都



みなさんにとって「音楽」とは何ですか。好きな歌手の歌? 音楽の授業?

私にとって音楽は生活に欠かせないもので、ピアノに触れることで、もっと好きになりました。私がピアノを習い始めたのは6歳の頃です。いところがピアノを弾いている姿にあこがれ、8年間続けてきました。去年のコンクールでは、初めての参加でしたが「銅賞」を取ることができました。しかし審査員の先生の講評にこんなコメントが書かれていました。「もっと心と体で音楽の流れを感じて表現してください」この言葉をみなさんならどう解釈しますか。

その日から私はその言葉を意識するようになりました。でも、これまで通り「曲を最初から最後まで何回も繰り返し弾く」という練習では、講評にあった「心と体で表現する」することができません。今までとは違う新たな練習方法が必要です。そこで考えついたのが「曲にストーリーをつけて弾く」です。ピアノの演奏には当然歌詞はありません。音符のみです。その曲調にイメージを載せるのです。この方法で今年のコンクールの課題曲をイメージしてみました。タイトルは「戦士のおどり」。この曲は暗く、それでいて迫力があります。この変化に富んだ曲を、両手の使い方や弾き方の強弱をもとに考えたストーリーは、戦士AとそのAを目の敵にしている戦士Bが一騎打ちするということです。最初は戦士Aが斬りかかり、戦士Bは「負けられない」と受けて立ちます。そのうち争いが激しくなり、そのまま両者はお互いに譲らず、クライマックスに突入。がむしゃらに攻めるAに対して、冷静なBはAの隙をついて致命傷を与え、戦いに勝利。歓声の中、戦いはエンディングとなります。

私はこの方法で、コンクールに向けて練習をがんばりましたが、頭の中ではストーリーを考えていても、それを体で表現することができません。そんな時私は、ある人物の存在を思い出しました。その人の名は辻井伸行さん。辻井さんは視覚障害を持つピアニスト。私は、この辻井さんの生き方を改めて見つめる中で、「努力は裏切らない」という言葉を思いつきました。障害を抱える辻井さんは努力し成功しました。私はちょっとうまくいかないと投げだしています。そんな私にピアノの先生が「悲しい場面だと思ったら音を小さくする。音を小さくしたかったら体を小さく縮めて弾くと良いよ」とアドバイスをしてくれました。実際にその通りに弾いてみると、少しずつ「心と体で音楽の流れを感じて表現する」と言うことが、自分なりにできてきたような気がし、その感覚を手がかりに懸命に練習を重ね、本番の日まで鍵盤を叩き続けました。

そして迎えたコンクールの日。弾き初めは緊張で上手く指が動いてくれません。しかし譜面が進むにつれ、次第に緊張がほぐれ、思い通りの演奏ができました。審査結果は「銀賞」。私の胸はうれしさでいっぱい、諦めずに練習してきた本当に良かったと心の底から思うことができました。